

※※掲載しているイベント・休館日などの情報は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じて中止または変更になる場合があります。最新の情報は図書館ホームページをご確認ください※※

図書館つうしん

岡中央図書館 Tel 24-1507

【5月の休館日】

3日 月・4日 火祝・5日 火祝・6日 水・10日 月・17日 月・
24日 月・27日 水・31日 月

おすすめ！新着本



繕うワザを磨く
金継ぎ上達レッスン
持永かおり／監修
金継ぎで、大切な器がよみがえる。道具や技法、繕いのコツをカラー写真でわかりやすく説明します。
(メイツ出版)



鳥になった恐竜の図鑑
真鍋真・川上和人／監修
絶滅してしまった恐竜に会うことはできませんが、恐竜は鳥に姿を変え進化しつづけていることがわかりました。そのひみつを紹介します。
(学研プラス)

【5月のおはなし会】

- ◆こども図書館(午前10時30分～)
 - 1日 月 おはなし玉手箱
 - 13日 水 ひよこのおはなしかい
 - 15日 月 むかしむかしのおはなし会
- ◆中央公民館(午後2時30分～)
 - 8日 月 おはなしフレンズ

【石岡市に転入した人へ】

図書館利用カードは0歳から！



作成するには、住所、氏名、生年月日が確認できるもの(免許証、保険証など)を持ってご来館ください。



▲村田宗右衛門文書 大日本史と図書目録

時の記憶

シリーズ 186

「村田宗右衛門家の図書目録」

岡文化振興課(支所)

Tel 43-1111 (内線 1324)

市には5000点を超える文書や書籍が寄贈されていて、近年これらへの虫菌害を防ぐため燻蒸処理を行っています。今回は令和2年度に処理を行った村田宗右衛門文書から資料を紹介します。

村田宗右衛門家は醸造業で財を成した豪商で、その「図書目録」が残されています。記載されている書籍から、明治20年頃にまとめられたものと思われる。

図書目録には171種767冊の書籍が記載されています。その中には商家らしく「商売往来」などもありますが、冒頭にくるのは「大日本史」「皇朝史略」であり、その他にも天狗党の乱の顛末をまとめた「常野紀聞」など水戸学関連の書籍が見られます。幕末の石岡は天狗党の拠点の一つであり、天狗党に参加した薄井督太郎が寺子屋を開いているなど、多くの人が水戸学を学んだと想像できます。村田宗右衛門もその一人だったのでしよう。村田宗右衛門は天狗党による染谷焼き討ちの際に大量の見舞い品を染谷村に贈ったといわれていますが、この行動には水戸学が影響していたのかもしれない。

収集された書籍は人や家を映す鏡です。図書目録は村田宗右衛門家の教育や趣味など、生活の細部を教えてください。

文芸いしおか

俳句

いしおか俳句同好会

犬ふぐり踏んでしまつて気付きけり 一色 しのぶ(総社)
 桜よりマスク気になる景色かな 川島 市郎(東田中)
 移り住み故郷となりし山笑う 前川 豊美(石岡)
 若き日の心は失せず花の冷 森 まさえ(東光台)

やさど俳句会

春の空丸き背中を伸ばしけり 羽生 俊(柴内)
 春の朝子の靴音の弾みけり 鈴木 恵子(瓦谷)
 よちよちのまろぶ幼児山笑う 松崎 淑子(細谷)
 彼岸会や母の遺影に励まさる 島田 美沙生(嘉良寿理)

川柳

いしおか川柳会

オレオレに心のカギを開けられる 北白川 令(石岡)
 春隣夫のばやき聞かぬふり 高橋 房子(小幡)
 退屈は私の辞書にありません 永瀬 敬子(柿岡)

短歌

石岡短歌同好会

木間塚 具子(井関)
 忘れたき事多かりし白髪にパーマをあてる早春の午後
 大嶋 全江(高浜)
 切りに切り梅の細枝ほそえにけなげ咲き朝朝に見つつ詫びる吾も居る
 西村 静江(茨城)
 手術終え無事退院とがん病む友のうれしき電話

俚謡(都々逸)

石岡俚謡会

前島 くに子(貝地)
 春の日差しを たっぷり受けて 猫とじやれるる 老夫婦
 赤い毛糸を 大寒前に 被る地蔵の 目が笑う 小川野 蛙(府中)
 川崎 洋子(若松)

座席譲られ 笑顔で返す そんな歳かと 沈む腰 石塚 芳華(石岡)
 占める妻の座 ゆるがぬ重さ 俺も家来に されている 醍醐 正夫(東大橋)
 通う病院 ロビーの座席 爺と婆やの 花談義 若色 茂(山崎)

銀座観光 屋根なしバスで ビルを見上げる 冬帽子 暁 夢華(総社)
 花に誘われ 外での授業 芝に円座の 女学生 高橋 真希(細谷)
 座って一息 半分だけど 今日終わりに したくなる 福田 泰夫(東光台)
 枕代まくらしろわりに 座布団折れば 夢は故郷の 山や川

投稿作品

引く草のあわれや淡き花を持ち 川崎 夫久(真家)
 漆黒の椿練乳吐き出せり 森田 愛子(石岡)
 原田 光男(石川)
 換気換気と 窓開けされて 寒さ身に染み 咳と熱 荒井 幸子(山崎)
 十年の時は早くも過ぎたれど正視辛かり津波の映像

第31回

石岡コカリナ同好会

コカリナという楽器は、1995年に東欧ハンガリーから持ち帰られ、現地では桜の木のオカリナと呼ばれている小さな笛の音に魅せられた日本人の音楽家と、たくさんの木工家によって精度の高い楽器として誕生した木の笛です。

今では直径11cmほどのコントラバスを含め、数種類のコカリナでソロ演奏はもちろん、アンサンブルも楽しむことができます。

石岡コカリナ同好会には2つのサークルが所属し、それぞれ月1回の練習ですが、県内で毎年開催されるフェスティバル「筑波山麓コカ

文化協会だより



リナピクニック」に出場し、多くのサークルの演奏にも触れ交流を深めています。童謡からクラシックまで、幅広い楽曲を「楽しく吹こう」をモットーに練習に励んでいます。

会員数：15人 会費：月1,000円
 河部さかゑ Tel 090-9147-6529